

優科豪馬橡膠有限公司 CSRレポート

事業内容: 中国エリアのタイヤ、MB製品生産会社、販売会社の経営管理、中国プロジェクト投資管理
442.36m²

従業員数: 57人 (そのうち、Y-CH社員33人、YCTC社員23人)

所在地: 中国上海市長寧区虹橋路1452号古北国際財富中心10階

相談・苦情などの受付窓口:

TEL: 0086-21-32091717 FAX: 0086-21-61671388

メールアドレス: www.yokohama.com.cn

サイト長ご挨拶



近藤 成俊

優科豪馬ゴム有限公司は、2005年に設立された横浜ゴムグループの中国統括会社です。

中国には、タイヤと工業品の事業を展開しており、現在4拠点の工場と2拠点の販売会社を合せ計7社体制で運営しています。

横浜ゴムが掲げるCSR経営ビジョン「社会からゆるぎない信頼を得ている地球貢献企業になる。」に準拠した事業運営を生産・販売の両面から実施しております。

◇世界で培ってきた環境対応技術(製品・製造)を中国に生かす!

急速な経済発展を遂げた中国では、現在深刻な環境問題に直面しております。先進の環境商品を中国市場に投入するとともにゼロエミッション、公害ゼロを目標に世界で培ってきた製造技術・設備を中国に投入すると共に高い環境マインドで環境貢献に取り組んでおります。

◇中国の法規制を順守し、清く正しい公正な事業活動行!

コンプライアンス(法令順守)を事業の活動指針とし、公正な事業慣行、労働慣行を行います。従業員一人一人にコンプライアンス、環境・社会

貢献の教育を徹底し、国際社会で通用する企業人の育成に注力しております。

◇私共の独自の視点から中国の環境保全に貢献できる領域を切り開く!
誰にでも気が付く、また誰にでもできる領域だけでなく、私たち「優科豪馬」独自の視点から中国の環境貢献、社会貢献を考え、オンリーワンの領域を見つけて活動を推進したいと考えます。既に少数民族地域の生活支援活動をはじめ独自領域の活動において高い評価を頂いております。

◇省資源こそが最も重要で大切!

私たちは、「必要なものを、必要な時に、必要なだけ供給する」と言う「Just In Time」を志向し、生産方法～在庫量・在庫の持ち方～配り方(配送)を考え、SCM(Supply Chain Management)の構築を進めております。中国の商習慣とは一線を画す考えである事を承知の上で、「優科豪馬グループ」のポリシーとして取り組んでおります。

以上の通り、私共は国際メーカーとして中国市場で事業活動をさせていただいている事への「恩返し」を常に念頭に置いて事業活動を行っております。特に、社会貢献、環境貢献については強い意識と信念を持って今後も取り組んでいきたいと考えております。



環境

CSZYでのISO14001環境内部監査

2013年8月5日の横浜ゴムとの環境会議で、中国全社の環境監査体制を確立する提案があ統一化、標準化した監査計画と体制を整備して、具体的な監査事項を確立することを目的として、今回CSZYにおけるISO内部審査を共同で実施しました。

審査員: Y-CH 孟英、張芬、蔣穎; YIP-SH 五十嵐; CTSY 周潔; CHZY 陳營; YHHC 鄭亜軍

監査期間: 2013年9月23~24日

・監査の実施

2日間のISO14001内部監査で74件の問題点を発見しました。9月27日の最終会議で35件が指摘事項となりました。その是正対応を進め、11月の外部監査を受審しました。発見された不適合項目には下記のような問題がありました。

1. 環境目標、方針に対する、各部門での年間実行計画やその管理(環境業務に関する書類、記録)に抜けがありました。



CSZYにおけるISO14001環境幹部監査報告

2. 各部門での環境側面(環境に影響を与える仕事やモノなどである)に対する認識の漏れや更新が行われていないことがありました。例えば、技術が改善され、「廃棄の発生と排出」という環境側面がすでになくなったが、更新されていませんでした。
3. 各部門でのISO14001体制、監査内容などの理解が不十分でした。環境業務は環境課だけの仕事だと思い、実施した環境関連の研修記録に不備がありました。
4. 昨年の内部監査で指摘された不適合は一時改善に留まり、今回の監査でまだ同じ不適合が出ました。
5. 重要な問題として、(1) 廃棄物貯蔵基準に沿った危険廃棄物の分類と配置の不備、(2) カーボンブラックの洩れ防止策の不備がありました。

YIP-SHの五十嵐董事長より、「各工場、会社の各部門での環境業務への理解と執行力はそれぞれ異なりますが、YRCのCSR経営理念「社会からゆるぎない信頼を得ている地球貢献企業になる」に基づき、トップレベルの環境貢献企業になることを目指して、問題点をなるべく早く改善してほしい。」と監査の講評をいただきました。

・改善の方策と今後の展開

今回の監査は、2014年度に中国工場で統一監査を実施するためのよい経験と参考になりました。監査員の経験と能力向上、および環境管理体制の確立に向けた取り組みを行うことを決めました。

1. まず、社員の環境意識を強化すること。環境の仕事は社員と企業の利益に直接関わることであり、子孫にも貢献できる仕事です。仕事をこなす気持ちで対応しているのではなく、環境に対する意識を変えなければならない。環境の仕事は環境課だけの仕事ではなく、全部門、各社員は一緒に協力し合い、自ら環境保護意識を持つようになっています。
2. 危険廃棄物の早急処理については、CHZYの経験を参考し、CSZYは開発区の環境管理部門にも相談（外部の力を借りて）危険廃棄物の整理整頓を行い、法律規制を守りながら、環境保護に取り組んでいきます。

中国グループ会社の第一回中国エリア環境会議の実施



Y-CHにおける第一回中国エリア環境会議の様子

2013年12月20日、中国グループ8社17人が参加し、第一回の環境会議を開催しました。各子会社の活動および課題の情報提供と共有を行い、2014年度の中国拠点の環境目標の設定を行いました。

横浜ゴム中国グループの環境目標

- ・生産拠点で廃棄物ゼロエミッションの継続
- ・省エネ・エネルギー消費の減少と温室効果ガス排出の削減の継続
- ・グループ内外で自然環境保護活動の展開

・総括と今後の展開

1. 2013年度の中国エリアの第一回の環境会議は、横浜ゴムグループとしても、初めてのエリア環境会議で、とても意味深い会議です。横浜グループは環境活動をグループに分けて推進していこうとしています。もし可能であれば、台湾も中国エリアに入れて、環境活動を一緒に展開していきたいと思えます。
2. 2013年12月初めにYRCグローバル環境会議が開催されました。今後、現地社員をこの会議に参加させ、環境活動の推進を一緒に検討することを提案しました。もちろん、参加する現地社員はまず言葉の壁を取り除かなければなりません。
3. この会議は交流のプラットフォームとして考えてもらいたいです。今日は機能の違う企業がこの場に集めて一緒に環境活動を検討することができました。製造会社と販売会社はそれぞれ機能が違いますが、現段階では、製造会社の環境活動は販売会社よりもっと深く、丁寧に行われており、販売会社が製造会社の経験をもっと勉強しなければなりません。次回のエリア環境会議に参加すれば、各社が行っている環境活動の差をもっと実感でき、各社のレベル向上にも役に立てると考えます。
4. 環境保護は共通のグローバル課題です。各社はただ業績のことを考えるだけではなく、自分の環境課題を設定し、勇気を持ってチャレンジする姿を示すことが必要です。

コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

老君山生態保護項目への継続的な資金援助に対して、最優良企業イメージ賞を受賞

2013年9月27日、北京で開催された環境イベント「2013年度『美しい中国』で、『最優良企業イメージ賞』を受賞しました。「美しい中国」は、CSRへの取り組みを進める企業や個人を奨励するため、中国国内の新聞とネットメディア17社が共催したイベントで、今回が第1回目の開催でした。約50のメディアが来場し、イベントの様相を紹介しました。受賞企業および受賞者は企業100社（うち外資系35社）、個人38人で、当社を含め、「最優良企業イメージ賞」を受賞した日系企業は2社だけでした。



表彰式に参加した田中孝一 優科豪馬橡膠有限公司 董事長・総経理（当時）

参考：

当社は、「北京三生環境発展研究院」が実施する「河源コミュニティでの持続可能な発展と生態保護プロジェクト」に賛同し、2011年から支援しています。森林伐採を主な経済収入とする村民の生産生活により、自然資源と自然生態系の多くが破壊された麗江老君山河源村において、住民が自活できる経済システムの確立と自然生態系保全の共存を目指しており、優科豪馬橡膠は教育支援や環境保全活動などを実施してきました。また、横浜ゴムグループが2007年から進めている植樹プロジェクト「YOKOHAMA 千年の杜」では、これまで中国の生産拠点に4万本植樹しています。